

**事後評価報告書**  
(日本-台湾研究交流)

1. 研究課題名: 「フッ素添加スズ酸化物の特異ナノ表面構造と生体分子固定化による心臓疾患検出用バイオセンサの構築」

2. 研究代表者名:

日本側: 国立大学法人東京工業大学 理工学研究科 准教授 松下 伸広

相手側: National Tsing Hua University, Chemical Engineering, Professor Lu Shih-Yuan

3. 総合評価: B

4. 事後評価結果

**(1)研究成果の評価について**

FTO 電極基盤に分子固定化して心筋梗塞マーカーを含む重病診断マーカーの高感度検出に発展させたことはバイオセンサ分野に対する波及効果が大きく、その進展に寄与すると期待される。一方で、FTO 電極が期間内に台湾チームから提供されなかったことが大きく影響しているが、FTO 基板上への生体分子固定化の電気化学的検出に関する結果については十分な成果とは言えないと考える。共同成果を積極的に学会で発表し、高い評価も得ていることから、共著論文や知財化を含めた今後の成果発表等に期待したい。

**(2)交流活動の評価について**

社会貢献度の高いバイオセンサ構築を通じた交流によって、若手の技術的な育成とともにモチベーションが向上されたことは評価できる。また、日本の若手研究者が多くの国際学会に参加し、発表を経験できた意義は高いと考える。一方で、台湾チームからは期待された研究協力や訪日が限定的であった点から、台湾チームの研究成果や貢献による相乗効果は明らかでないため、やや一方的な研究交流であった印象を受ける。今後の双方向的な交流活動が望まれる。